

飯島賢二の 『恐縮ですが...一言コラム』

第 439 回 驚異の発展の源～シンガポールの観光政策

2011.9.25

観光業の振興が、地域経済に及ぼす波及効果が大変大きいことは、もう随分前からいわれており、実証されている。本コラムでも、何回となく取り上げてきた。

我国も、観光行政の進展を目指し、平成 18 年 12 月の「観光立国推進基本法」の成立、観光行政の責任を有する組織を明確化するため、平成 20 年 10 月 1 日に国土交通省の外局として、「観光庁」が発足した。

しかしその実情は...、あいも変わらず「仏つくって魂入れず」、カッコだけ整備し、いかにも「やってます」という、役人行政の域を脱していない。

明らかに「**観光後進国**」である日本を尻目に驚異の発展を続けるシンガポールの観光政策、今回はその一端をご紹介したい。

シンガポールは、1965 年にマレーシアから追われるような形で独立し、狭い国土や乏しい資源といった厳しい条件を抱えつつ、わずか数十年で奇跡的とも言える成長を遂げた。1965 年当時はわずか 10 万人あまりに過ぎなかった来訪者数が、シンガポール及び他の東南アジア諸国の経済成長等に伴い急激に増加し、2010 年になると、経済不況からの回復や2つの総合リゾートの開業などを背景に一転し、来訪者数は**1,160 万人**(同 20 %増)と過去最高となった。

S MAP 出演のシンガポールの空中庭園「サンズ・スカイパーク」で撮影されたテレビ CM、ご覧になった方多いと思うが、あれがその1つである。

同庭園はカジノ複合リゾート「**マリーナ・ベイ・サンズ**」のホテル 3 棟においかぶさるように渡された天空の施設で、地上約 200 メートルに位置し、長さ約 150 メートルのスイミングプールがある。

2010 年の観光収入は S\$ 188 億(シンガポールドル、約1兆 2,220 億円、S\$ 1 = 65 円)と、**国内総生産(GDP)の約 6%**に達しており、観光産業はシンガポールにおける主要産業の一つになっていると言えよう。

ホテルへの宿泊やショッピング、食事など来訪者による 2010 年の観光収入は S\$ 188 億と、前年比 **49 %と大幅に増加**し、来訪者数とともに過去最高を記録した。

ホテルの平均客室稼働率は、2010 年になると、好転した経済状況や来訪者数の大幅な増加等を背景に、**平均客室稼働率は 86 %**と、前年比で 9.8 ポイント上昇した。

観光面のみならず、各種会議、展示会等の誘致も、シンガポールへの来訪者数を増加させる手段として積極的に行われている。オランダのアムステルダム国際会議協会は、2008 年の国際会議都市ランキングで、シンガポールをパリ、ウィーンそしてバルセロナに次ぐ**世界第 4 位**と評価している。また、ベルギーの国際団体連合の 2008 年調査でも、シンガポールは、国際会議開催場所として、国別ではアメリカ、フランスに次ぐ**世界第 3 位**、都市別では**世界第 1 位**と、総じて国際的な評価は高い。

これは、ほんの一部の紹介にすぎない。

シンガポールにはこの実績を作った元がある。世界に冠する経済大国日本は、もはや過去のこと、シンガポールの観光政策 = 経済政策に、真摯に学ぶ時である。